



NPO 法人 瀬戸内オリーブ基金

年次報告書（2019年4月1日～2020年3月31日）

理事長挨拶

平素は当基金の活動にご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

本報告書は、当基金が2019年度に行った活動をとりまとめ、みなさまからお預かりした寄付金をどのような活動に使わせていただいたかを報告するものです。

当基金は、瀬戸内の自然、つまり「ゆたかな島と海」を次の世代に引き継ぐことを目的として、瀬戸内海エリアで行われる環境保全活動に資金を助成するとともに、自らも環境課題に取り組んでいます。2019年度は、新たに「ゆたかな海プロジェクト」（瀬戸内海の海洋プラごみを減らす活動）を立ち上げ、関心を持つ市民のみなさまと一緒に連続学習会を開催しました。また、ペットボトルを減らすために、豊島の飲食店にリフィルスポット（給水所）を設置してもらうなど、私たちの生活を見直す行動を提起してまいりたいと考えています。

引き続き当基金への変わらぬご支援をお願い申し上げます。

理事長 岩城裕

第1部 助成事業

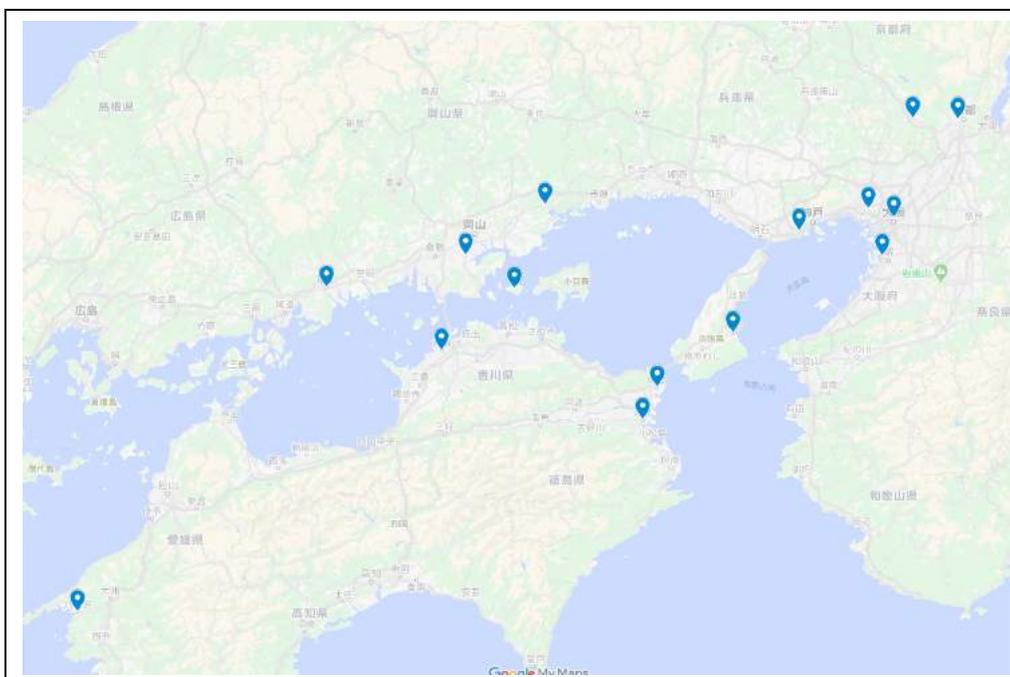
瀬戸内海エリアで環境保全活動を行っている団体・個人に対して活動資金を助成しています。

植樹活動や環境教育などに助成する「植樹・環境教育助成」と、これから始めるユニークな環境保護活動などに年度を超えて支援する「スタートアップ助成」があります。

適正な助成を実現するために外部の有識者で構成する助成審査委員会を設置し、その検討結果をふまえて当基金の運営委員会が決定しています。

1 採択した団体とプロジェクト

2019年度は14件の植樹・環境教育活動に助成をしました。海洋プラスチック問題に取り組む活動に多数の応募があり、活動内容も良質でした。公募以外の助成として、当基金の直轄事業である豊島・ゆたかなふるさとプロジェクトに参加していただいている岡山大学の研究活動や、環境教育として実施されている「豊島・島の学校プラス」の実行委員会に助成を行いました。



(図：2019年度助成先)

府県名	団体名／プロジェクト名	活動の内容
京都	川と海つながり共創プロジェクト ／京都保津川からの挑戦：内陸部から海ごみを減らそう！	内陸部の小学生と保護者が海に行き、海のごみに関する勉強をして、海や川のごみ問題に対する意識向上を図る活動及び3月の保津川の日に関川清掃をして、下流や海へのごみの流下を防ぐ活動。
京都	NPO 法人ひとともしデザイン研究所 ／嵯峨野嵐山の森林再生と地域づくりにむけた取り組み	嵯峨野・嵐山地域で、森林整備と森林教育を実施し、合わせて植生の現地調査と分析を行う活動。

大阪	公益社団法人大阪自然環境保全協会／魚へんに思う、ということ	淡路島の成が島で自然観察会を実施し、合わせてごみ回収を行うことにより、市民の海洋プラごみ問題への関心・意識・参加・行動実践・情報レベルを向上させる。
大阪	堺市環境政策課／自然体験学習「堺の海で漁業体験」	漁船に乗り込み、漁業体験と水質環境調査手法を学ぶ環境学習の実施。
兵庫	一般社団法人淡路水交会／漁業者による森づくり	漁業者が県民にも呼びかけながら森づくりを進め、生じた徐・間伐材を柴浸け等に活用する。豊かな海づくり（海の再生）と植樹（森づくり）を連携し、環境の保全と併せて地域への貢献を図る。
兵庫	全日本サーフキャスティング連盟兵庫協会／「釣り人の森づくりプロジェクト」～水源と茶道文化を支える豊かな里山・海づくり～	海釣りをしている団体が水源と里山を守るために、川西市黒川の水源近く近くにクヌギを植樹し維持管理する活動。クヌギは茶道用高級炭である菊炭用原料として供給する。
兵庫	兵庫県阪神南県民センター尼崎管理事務所／尼崎の森中央緑地・環境体験学習推進事業	尼崎の森中央緑地で、地元の小学生や公園利用者を対象に、森づくり活動（種まき・植替・植樹等）の環境体験学習を実施する。生物多様性の森を 100 年かけて作る取り組みの一環。
岡山	NPO 法人グリーンパートナーおかやま／うみごみから流域環境を考えるプロジェクト 2019	海ごみの発生抑制を目的として、瀬戸内海の小豆島沖で、底曳網船による「海底ごみ回収体験学習」を行ったうえで「ワークショップ」を開催し啓発活動をする。
岡山	備前市里海・里山ブランド推進協議会 with ICM／里海・里山ブランドオリーブ&もみじプロジェクト	沿岸部にオリーブ、山間部にサクラを植樹し、耕作放棄地の解消と地域の賑わいの創出を目指す活動。
広島	NPO 法人カメレオン・アーミー協会／夜のごみ拾いウォーキング	繁華街で夜間にごみ拾いをするにより、ごみが散乱していることに対する市民の意識啓発を図るという活動。
徳島	NPO 法人アユートネットワーク／海ごみ撤去活動 IN 鳴門	国道 11 号線沿いにある、スクエアポッドとテトラポッドの間の海ごみを回収・撤去する。シンポジウムを開催し結果を報告する。
徳島	NPO 法人環境とくしまネットワーク／せとうち・鳴門「ゴミ箱になった海」再生化プロジェクト	鳴門海岸の漂着ごみを調査し、合わせて清掃活動を実施する。シンポジウムを開催し結果を報告する。
香川	塩飽部隊（四国夢中人）／手島の竹林伐採作業	香川県丸亀市手島で竹林伐採活動を行い、伐採した竹をチップにするために、瀬戸内オリーブ基金所有のチップパーを貸し出す。
愛媛	一般社団法人 E.C.オーシャンズ／瀬戸内海の秘境に浜辺の漂着ゴミ・調査・環境フォーラム・年末大清掃	小豆島から福山沖までの島々約 75 か所の浜辺で上陸調査を実施する。合わせて「瀬戸内海・年末大掃除」を実施する。

2 助成金支出先

2019 年度は下記の団体に合計 13,297 千円の助成金を支出しました。(金額は千円の単位で四捨五入しています)

府県名	団体名	プロジェクト名	助成額 (千円)	分野	採択 年度
京都	NPO 法人ひとともにデザイン研究所	人と森を繋ぐ嵐山嵯峨野の風景づくりプロジェクト	987	スタートアップ助成	2016 年度
大阪	堺市環境政策課	堺エコロジー大学	200	環境教育助成	2018 年度
兵庫	全日本サーフキャスティング連盟兵庫協会	釣り人の森作りプロジェクト	295	植樹助成	2018 年度
兵庫	兵庫県立なか・やちよの森公園運営協議会事務局	どんぐりの森プロジェクト	124	植樹・環境教育助成	2018 年度
兵庫	NPO 法人ワトワーズ多聞台	まちづくりと連携した都会の里山づくりと環境教育の場づくり	500	スタートアップ助成	2017 年度
兵庫	淡路水交會	漁業者による森づくり	870	植樹助成	2018 年度
奈良	旧天川西小学校校区活性化推進協議会	大峯高野街道保存プロジェクト	313	植樹助成	2018 年度
岡山	備前市里海・里山ブランド推進協議会 with ICM	里海・里山ブランドオリーブ&みじプロジェクト	1,000	植樹助成	2018 年度
岡山	岡山大学	荒廃地緑化研究	606	環境教育助成	2019 年度
岡山	NPO 法人グリーンパートナーおかやま	うみごみから流域環境を考えるプロジェクト 2019	620	環境教育助成	2019 年度
徳島	NPO 法人新町川を守る会	吉野川源流域の森で行う森の健康診断の体験活動	460	環境教育助成	2018 年度
香川	家浦自治会・唐櫃自治会・甲生自治会	豊島産廃不法投棄現場見学者用階段等設置事業	5,884	環境教育助成	2017 年度
香川	豊島・島の学校プラス実行委員会	豊島・島の学校プラス 2019	118	環境教育助成	2019 年度
山口	神東地域振興協議会	イエロービュープロジェクトみかん畑からレモン畑に!	1,274	植樹助成	2018 年度

第2部 直轄事業

1 ゆたかな海プロジェクト（瀬戸内海の海洋プラスチックを減らす活動）

当基金は以前から海洋ごみ問題に取り組んできました。2019年度は海洋プラスチックごみ問題が広く市民に知られるようになり、海洋プラスチックごみに対する取組みをいっそう拡大・強化する目的で、「ゆたかな海プロジェクト」を直轄事業の一つに位置付けました。

1-1 オリーブフォーラムの開催

海洋プラスチックごみ問題についてより深く学ぶために3か月連続でオリーブフォーラムを開催しました。先進の活動をしている方々を講師としてお招きし、企業や市民のみなさま延べ約100人に参加いただきました。得た知識とつながりを次のステージの行動に活かしていきます。オリーブフォーラムは2020年度も引き続き開催する予定です。



開催日・テーマ	講義題／講師（敬称略）
7月6日（土） 排出抑制の最前線 - 理論と実践	<ul style="list-style-type: none">● 「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」～世界最先端の『環境先進都市・亀岡』を目指して／山内剛（亀岡市役所）● 使い捨てプラスチック削減に向けた地域の活動／堀孝弘（京都市ごみ減量推進会議）● 海岸漂着ゴミ回収の有効性 - 瀬戸内海のマイクロプラスチック調査からわかったこと - ／日向博文（愛媛大学）
8月3日（土） 回収困難地域と回収活動	<ul style="list-style-type: none">● 美しい海をこどもたちへ～プラスチックによる海洋汚染～／小島あずさ（JEAN）● 回収困難地域とは／岡山一郎（山陽新聞社）● 無人島でゴミを回収してみた／岩田巧次（E.C.オーシャンズ）
9月7日（土） 日本と世界の最新事例	<ul style="list-style-type: none">● 深海魚が語る海ごみの汚染／山本智之（科学ジャーナリスト・朝日学生新聞記者）● 世界と日本の海洋ごみ問題の現状／飯野暁（環境省 水・大気汚染環境局水環境課海洋環境室）● プラスチックの持続可能な利用を目指す東京都の施策／古澤康夫（東京都環境局資源循環推進部専門課長）● 未来のために知っておきたい、海とプラスチックの話／原田禎夫（大阪商業大学公共学部公共学科）

ファシリテータ：斉藤潤（島旅作家）

開催場所：7月・大阪市 WILLER EXPRESS CAFÉ／8月9月・大阪市ハローライフ
講義録を無料でお配りしています。QRコードからダウンロードできます。



1-2 豊島リフィルスポット設置プロジェクトの始動

オリーブフォーラムを受けて、まずは豊島でのペットボトルの削減を目指し、豊島内の飲食店を給水所（リフィルスポット）とするプロジェクトをスタートさせました。3月20日に飲食店9店舗がリフィルスポットとして名乗りを上げ、各店舗では、SNSによる告知とマイボトルの持参を呼びかけていただきました。現在は新型コロナウイルスの影響で活動が中断していますが、今後、協力店舗をさらに増やし、豊島限定デザインのマイボトルの作成をするなど普及に努める予定です。



1-3 海岸漂着ごみの回収活動

すでに海に流出してしまった海洋プラスチックごみを回収する活動として、海岸に漂着したごみの回収を行っています。マイクロプラスチック対策の一つとして、漂着したプラスチックごみが微小化する前に回収することが有効です。



2019年度は次の活動を行いました。

実施日時	協働実施団体	実施場所	人数 (人)	回収量 (kg)
2019/4/16	ユニクロ・ジーユーボランティア	豊島・柚の浜	27	105.8
2019/6/18	ユニクロ・ジーユーボランティア	豊島・柚の浜	29	95.0
2019/8/28	NGP 日本自動車リサイクル事業協同組合	豊島・横引ヶ浜	10	47.3
2019/9/25	愛媛大学法学部兼平研究室	豊島・水が浦	11	122.9
2019/10/16	ユニクロ・ジーユーボランティア	小豊島	32	67.3
2019/10/23	NGP 日本自動車リサイクル事業協同組合	豊島・横引ヶ浜	6	52.9
2020/1/18	タカラベルモント・ルベル	豊島・硯西側	31	238.7
合計			146	729.8



2 豊島・ゆたかなふるさとプロジェクト（国立公園原状回復事業）

豊島・ゆたかなふるさとプロジェクトは、豊島の産業廃棄物不法投棄現場とその周辺の自然を再生し、次世代に引き継ぐ活動です。不法投棄現場は瀬戸内海国立公園の中にありますが、長期間にわたって海浜や山の土砂が採取・掘削されたため、表土が失われています。さらに不法投棄によって植生がかく乱されており、国立公園とは名ばかりの状態になっています。当基金は、住民や企業ボランティアの協力を得て、この場所を国立公園にふさわしい状態に回復する取組みを続けています。

この活動はトヨタ自動車株式会社のトヨタ環境活動助成プログラムの助成を受けて活動をしています。

2-1 ツツジの移植

岡山大学大学院環境生命科学研究科のみなさんは、不法投棄現場の植生の多様性を取り戻し、外来植物を除去する研究に取り組んでいます（5年目）。また岡山大学で種から育てたツツジの苗木を、豊島小学校の児童が1年間育苗し、中学校の生徒と一緒に移植する活動は3年目に入りました。今年も3月に（株）ユニクロ・（株）ジーユーのボランティアのみなさまと一緒に移植する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で延期になりました。（注）2020年5月18日に小中学校の先生方と植樹しました。



2-2 ボランティアとの取り組み

見学者が不法投棄現場全体を展望できるように石段で通路が設置されています。4月には（株）ユニクロ・（株）ジーユーボランティアのみなさんとともに、通路の脇に、本来の植生である多様性豊かな豊島の樹木を植栽しました。植栽に際しては、表土が失われ岩盤がむき出しになっている箇所には、土砂流出を抑える土留め柵を竹で手作りし、樹木が生育できる環境を整えました。

企業ボランティアとの取り組みは年々活発になっており、2019年度は（株）ユニクロ・（株）ジーユー、NGP日本自動車リサイクル事業協同組合、タカラベルモント（株）、（株）ルーヴのボランティアの方々が参加されました。（株）ユニクロ・（株）ジーユーのお客さまも参加されるなど、広く市民の方にも当基金の活動を知っていただくことができました。



3 豊島事件を継承する活動

日本が循環型社会へと転換していくきっかけとなった豊島事件の意義と教訓を次の世代に継承し、このような事件を二度と起こさないようにするために、当基金は豊島事件を語り継ぐ活動に取り組んでいます。2020年度からは地球環境基金の助成を受けて、豊島事件アーカイブの作成や老朽化した「心の資料館」の改修などの活動に取り組んでいます。

3-1 エコプロダクツ展への出展

当基金は、日本最大規模の不法投棄と言われた豊島事件を広く市民の皆さまにお伝えし、その意義と教訓をあらためて考える目的で、2017年より各地で「豊島展」を開催しています。2019年度は東京ビッグサイトで開催されたエコプロダクツ展に出展し、主として小学生・中学生を対象とする企画を実施しました。

○期間：2019年12月5日（木）～7日（土）

○場所：東京ビッグサイト

○「豊かなふるさとを守る努力が未来をつくる」をテーマとし、豊島事件の経緯をわかりやすいイラストを使ったパネル展示で説明しました。

○出展にあたってはNGP日本自動車リサイクル事業協同組合からブースの一角をご提供いただくなどご支援をいただきました。



3-2 豊島心の資料館の整備

豊島事件の現場の見学の際に使用される、「心の資料館」に保管している資料の更新や適切な保存を行いました。「心の資料館」は老朽化が進んでいるため、2020年度は電気の工事や外壁の工事を行う予定です。

4 豊島のオリーブ

当基金は、2014年度から、約1haのオリーブ園を管理し、住民とともにオリーブ木を育成してオリーブオイルを搾油しています。搾油したオリーブオイルを用いて、食用オリーブオイル、洗顔石鹸、美容オイルを製造し販売しています。

4-1 栽培概況

2019年度の収穫量は3594.2kg、搾油量は234.3kgでした。今年も香川県の定めるオリーブオイル品質評価基準で「プレミアム」の評価を受けています。オリーブの収穫の時期である10月～11月にはオリーブ収穫祭を実施しています。オリーブの育成と収穫は、不法投棄現場見学、豊島・ゆたかなふるさとプロジェクトの現場見学、オリーブ収穫体験、搾油場見学、搾りたてオイルの試食、豊島周遊等を組み合わせた環境学習プログラムの一部となっています。収穫祭への参加を含め、環境学習プログラムにつきましては個別に企画立案しますので、関心のある企業様は、瀬戸内オリーブ基金・事務局までお問い合わせください。



4-2 美容オリーブオイルの販売開始

2019 年度から、搾りたての新鮮な豊島産エクストラバージンオリーブオイルのみを使った顔用の美容オイルの販売を開始しました。つけた瞬間オリーブオイルの匂いがお肌を包みます。のびもよくとてもしっとりと仕上がります。2019 年度は食用の豊島 OLIVE、50ml を 2523 本、200ml を 341 本、顔用の美容オリーブオイルを 297 本、製品化しました。残念なことに、新型コロナウイルスの影響で、来島する観光客の足が途絶え、オリーブオイルの売り上げも伸び悩んでおります。当基金のオリーブオイルはオンラインショップでの購入も可能ですので、お力添えいただけますと幸いです。



購入方法：QR コードを読み取り、オンラインショップ (<https://teshimaolive.thebase.in>) からご注文ください。電話またはメール、FAX でのご注文も受け付けております。お気軽にお問い合わせください。



第3部 運営報告

1 決算

■事業会計収支に関する事項

当期の経常収益は 27,176 千円、経常費用は 39,637 千円。経常費用の内訳は特定非営利活動にかかる事業の事業費が 31,183 千円、管理費が 8,455 千円でした。当期経常増減額は 12,462 千円の減、次期繰越正味財産額は 53,549 千円です。

■ご寄付と事業収益の状況

寄付金収入は 19,580 千円、受取助成金は 593 千円、事業収益は 6,976 千円でした。

理事会・総会・運営委員会

理事会・総会開催状況、2020 年度の開催予定、運営委員会開催状況

2 理事会・総会・運営委員会

2-1 理事会・総会開催状況

[2019年度第1回理事会]

日時：2019年6月15日

場所：豊島交流センター2階会議室

主な内容：2018年度事業報告・収支報告審議、2019年度事業計画・予算審議

[2019年度第1回社員総会]

日時：2019年6月15日

場所：豊島交流センター2階会議室

主な内容：2018年度事業報告・収支報告審議、2019年度事業計画・予算審議

出席社員数：11名（うち4名は委任状出席）

[2020年度第1回理事会]

日時：2020年6月27日

場所：梅田新道法律事務所

主な内容：2019年度事業報告・収支報告審議、2020年度事業計画・予算審議

[2020年度第1回社員総会]

日時：2020年6月27日

場所：梅田新道法律事務所

主な内容：2019年度事業報告・収支報告審議、2020年度事業計画・予算審議

出席社員数：10名（うち1名は委任状出席）

2-2 運営委員会開催状況

出席者：理事、監事、運営委員、企画委員

場所：梅田新道法律事務所（第3回は香川県土庄町の豊島交流センター2階会議室で開催した）

開催回	開催日	主な審議議題
第1回	2019年4月20日	出張規定・有給休暇規定／事業計画／スタートアップ助成 2017年度活動報告／オリーブオイル販売・栽培報告／会計監査報告／ユニクロボランティア活動報告／他
第2回	2019年5月25日	事務局作業分担と研修／NGPとのパートナーシップ／オリーブフォーラムの開催／オリーブオイル製品の販売状況／他
第3回	2019年6月15日	助成公募／ユニクロ高松エリアでの活動紹介展示／美容オイルの開発／オリーブフォーラム／就業規則／事務局のインターンシップ／他
第4回	2019年7月20日	オリーブフォーラム振り返りと次回に向けての検討／日本財団との連携／豊島・島の学校プラスへの協力／監査報告／他
第5回	2019年8月24日	オリーブフォーラム振り返りと次回に向けての検討／グリーンパートナーおかやまとの連携／就業規則／週例会（スカイプ会議）の実施検討／旧松浦宅の取り扱い／中長期計画／ユニクロお客様ボランティア参加ツアー／美容オイル開発／他

第6回	2019年9月21日	旧松浦宅移転／豊島事件の語り部育成／オリーブフォーラムの今後／中長期計画／外部資金調達／オリーブ商品の在庫管理方法／美容オイルの開発／他
第7回	2019年10月26日	豊島事件のアーカイブ作成／助成審査／就業規則／ユニクロお客様ボランティア実施報告／年間スケジュールの確認／他
第8回	2019年11月30日	家浦漁協関係者からの提案検討／豊島事件アーカイブ作成／ゆたかなふるさとプロジェクト2020年活動案／オリーブ収穫状況報告／美容オリーブの開発／会計監査報告／他
第9回	2019年12月21日	ゆたかなふるさとプロジェクト2020年活動案／エコプロ出展報告と今後の対応及び豊島展との関係／他
第10回	2020年1月25日	安藤事務所報告／柚の浜へのトイレ設置と資料館の更新／Web サイト改訂／タカラベルモントボランティア実施報告／会計監査報告／他
第11回	2020年2月29日	来年度計画／運営委員会日程調整／資料館整備とバイオトイレ設置／Web サイト改訂／ユニクロ新店舗へのオリーブの移植／他
第12回	2020年3月28日	来年度計画／20周年記念の在り方／GUポイント／ツタ募金の使途／他

3 運営委員紹介

3-1 運営員紹介

役名	氏名	所属
理事（理事長）	岩城裕	弁護士（大阪弁護士会所属）
理事（副理事長）	青木智弘	ふれあい臨床検査センター（神奈川県茅ヶ崎市）
理事	安藤忠雄	建築家（安藤忠雄建築研究所）
理事	中地重晴	熊本学園大学社会福祉学部教授
監事	新田幸弘	株式会社ファーストリテイリング（ユニクロ）
監事	藤田恵介	公認会計士・税理士
運営委員	十河 完也	安藤忠雄建築研究所
運営委員	シェルバ 英子	株式会社ファーストリテイリング（ユニクロ）

3-2 事務局紹介

豊島に在中している当基金事務局職員です。ボランティア、オリーブ収穫祭へご参加の際は私たち2人が対応させていただきます。

	
伴場一昭	清水萌

4 【告知】2020年度開催予定行事のご案内

2020年度に開催を予定している行事のご案内をさせていただきます。関心のある方は、瀬戸内オリーブ基金・事務局までお問い合わせください。

4-1 オリーブフォーラム in 小豆島

日時：9月12日（土）13時～15時／場所：香川県土庄町中央公民館中ホール

内容：講演・原田禎夫先生（大阪商業大学）／京都府亀岡市の「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」や「プラスチック製レジ袋提供禁止条例」施行に中心的に関わった原田先生が、海ごみと使い捨てプラスチックのことを、楽しくわかりやすくお話してくれます。一緒に海ごみのことを考えましょう。[要予約]



4-2 海ごみリーダー育成講習会

日時：9月12日（土）15時～13日（日）12時／場所：香川県土庄町中央公民館中ホール

内容：スポーツごみ拾いの手法を中心として、楽しく安全に海のごみ拾いをする手法について学びます。[要予約]

講師：馬見塚健一（一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブ）／古澤純一郎（NPO法人海さくら）

4-3 オリーブ基金設立20周年記念月間

瀬戸内オリーブ基金はこの秋に設立20周年を迎えます。11月を20周年記念月間として様々なイベントを予定しています。20周年記念式典とオリーブフォーラムを岡山市で、豊島展を岡山大学で、オリーブ収穫祭を豊島で開催します。東京でのイベントも計画しています。詳しいことが決まり次第ご連絡します。（新型コロナウイルス感染症の影響で変更になることがあります）

5 ご寄付・ご支援のお願い

瀬戸内オリーブ基金の活動は、みなさまからのご寄付・ご支援により運営されています。お寄せいただいたご支援は、責任をもって瀬戸内海エリアの環境を保全し、未来につないでいく活動に活用します。

ご寄付、募金箱の設置、オリーブ製品のご購入などどのような形でも結構ですので、当基金の活動を支えていただければ幸甚に存じます。

■お振込みによるご寄付

振込先 ゆうちょ銀行一六九（イチロクキュウ）店

当座 0068797 特定非営利活動法人瀬戸内オリーブ基金

■募金箱へのご寄付

現在、全国のユニクロとジーユーの1200店舗をはじめ、廃車王取扱店など多数の場所に瀬戸内オリーブ基金の募金箱を設置していただいております。広く多数の方にご支援いただくために、募金箱を設置していただける企業や店舗を募集しています。

特定非営利活動法人瀬戸内オリーブ基金

761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦 3837-4

E-mail : info@olive-foundation.org 電話 : 0879-68-2911 FAX : 0879-68-2912